

世界女性の日

2021 年 6 月 12 日

救い主を見にきてください！

説教：南米支部女性伝道部

ダヴィ・フランカ牧師



リソースパケット：女性伝道部

編集：レベッカ・ターナー

セブンスデーアドベンチスト教団世界総会

12501 Old Columbia Pike, Silver Spring, MD 20904-6600 USA



女性部の皆様へ

喜んでご挨拶します。私たちの生きる世界は以前とは大きく変わりました。交わりの持ち方が変わり、以前に比べて健康や衛生に気を配るようになったわけですが、これらはすべて新型コロナウイルスのためです。

これは、私たちがもうイエス・キリストの福音を分かち合うことができなくなってしまったということでしょうか？いいえ、そんなことはありません。私たちはいま、より独創的な方法で福音を延べ伝えることが必要とされています。そして、安全を確保しながらできる新しい伝道の手段を私たち姉妹に授けてくださった神様に感謝いたします。

女性部のテーマは「行って世界に伝える」で、世界女性の日においては、イエス様を分かち合うことに重きを置いています。世界女性の日の説教とセミナーでは、周りの人々に手を差し伸べ続けることを勧めています。世界がどのように見えようとも、また、私たちの限界がどのようなものであったとしても、神様はご自身のために人々へ働きかける独創的な方法を示してくださるからです。説教とセミナーの著者であるダヴィ・フランカ牧師とハーバート・ボージャー・Jr.牧師は、イエス様について分かち合うよう私たちを励まし、またそのための分かち合いの方法を示すという、両方の素晴らしい仕事を成し遂げています。

私たちの祈りは、あなたがイエス様との関係を何よりも大事なものとし、その関係から分かち合うべき証と与えるべきイエス様の愛を得るようになることです。

愛と喜びを込めて、

ヘザードーン・スモール
女性部部长

「わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの神に感謝し、…」ピリピ 1:3-6

目次

1. 聖書出典	3
2. 子どものお話	3
3. 礼拝のアウトライン	4
4. 説教	5

1. 聖書出典 聖句はすべて口語訳から引用します。

2. 子どものお話

世界総会の女性部は、列王記下 5:2、3 の捕らえられた少女とナアマンについての話を子どものお話として用いるよう提案します。少女はまだ幼く、異国の地において、しかも奴隷でありながら、彼女の神や神の力について周囲に話すことをためらいませんでした。

この短いお話に描かれている少女の「私にもできる」という態度は、今回の説教の重要なポイントを象徴しています。

- ① 完璧な証人じゃなくてもいい。
- ② それほど知らなくてもいい。
- ③ 遠くに行かなくてもいい。

彼女はただイスラエルの神様について話し始めさえすればよかったのです。

また、この少女の話は、「どのようにしたら」福音を分かち合えるかについて三つのポイントを示しています。

- ① 福音を分かち合うことを優先した。
- ② 個人的な証を分かち合った。
- ③ 預言者エリシャやエリシャの行った奇跡について彼女自身が知っていることを話すことで、主の力に重点を置いた。

3. 礼拝のアウトライン 礼拝次第のすすめ

礼拝の呼びかけ

前禱

聖書朗読： イザヤ 12:3-6(口語訳)

³ あなたがたは喜びをもって、救いの井戸から水をくむ。

⁴ その日、あなたがたは言う、「主に感謝せよ。そのみ名を呼べ。そのみわざをもろもろの民の中につたえよ。そのみ名のあがむべきことを語り続けよ。

⁵ 主をほめうたえ。主はそのみわざを、みごとになし遂げられたから。これを全地に宣傳伝えよ。

⁶ シオンに住む者よ、声をあげて、喜びうたえ。イスラエルの聖者はあなたがたのうちで大いなる者だから」。

開会讃美歌： 希望の讃美歌208番 「栄えに満ちたる」

牧会祈禱

子どもの献金とお話：列王記下 5:2, 3「捕虜の召使のお話」をおすすめします

献金の勧め

特別讃美歌

説教：「救い主を見にきてください！」

閉会讃美歌： 希望の讃美歌273番 「暗き道に迷い」

終禱

4. 説教

救い主を見にきてください！

SAD 女性伝道部
ダヴィ・フランカ牧師

聖書箇所:ヨハネ 4:28-30、39-42

はじめに

ヨハネによる福音書 1 章には、バプテスマのヨハネが「見よ、神の小羊」(ヨハネ 1:36, 口語訳)と言うのを聞いたときのことが記されています。彼のふたりの弟子はヨハネの指した人について行き、イエス様はふり向いて、「何か願いがあるのか」と言いました(38 節)。

このふたりの弟子にはどんな願いがあったのでしょうか。彼らはイエス様に最高の福音の説教をするように、もしくは彼らに聖書研究を授けるように頼んだのでしょうか。聖職者としての資格や神学の単位、ましてやイエス様の家系図を見せるように求めたのでしょうか。いいえ！

彼らはイエスと知り合いになりたかったので、こう答えました。「どこにおとまりなのですか」(38 節)。弟子たちは誰かをよく知るための最良の方法は、その人と一緒に時間を過ごし、質問をし、話を聞き、その人のそば近くにいることだと知っていました。

「きてごらんなさい。そしたらわかるだろう」とイエス様は答えました(39 節)。

この出会いが弟子たちを変えました。すぐにアンデレはメシアに会うように、彼の兄弟を招きました。アンデレはイエスのいる方角だけ示して、シモンを一人で送り出すようなことはしませんでした。彼は自分でシモンをイエス様の元まで連れて行ったのです。

ヨハネによる福音書 1 章の次の箇所には、ピリポがイエス様に会った話が記されています。すぐにピリポは友人であるナタナエルに会い、言いました。「わたしたちは、(メシア)…ナザレのイエスにいま出会った」(45 節)。そして、ピリポは「きて見なさい」(46 節)と言ってナタナエルをイエス様の元まで連れて行きました。

ヨハネ 4 章には、イエスと井戸で出会い、その出会いによって変えられたサマリヤの女の話が記されています。彼女は罪の中に生きる無学な女性でしたが、真実に導かれるやいなや、彼女は飛び出して、彼女を変えたその人を見にくるように、人々を招きました。そして彼女自身が世の救い主であるイエス様に人々を引き合わせたのです。

女性と女性を通しての伝道を強調し、祝福する日である今日、私たちは、名前も記録されていない素晴らしい女性、サマリヤの女の話から教訓を学びたいと思います。私たちは、誰でも一男性でも女性でも子どもにだって一サマリヤの女、ピリポ、アンデレ、そしてイエス様がされたことができるということを発見するでしょう。私たちはどこに住んでいようと、家族や友達、近所の人たちを「イエス様を見にきてください！」と招くことができるのです。

井戸の女性

これはなじみ深い話ですね。ヨハネ 4 章の箇所だけを読みます。口語訳で 28-30,39-42 節をお読みします。

²⁸ この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き、人々に言った、

²⁹ 「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらん下さい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」。³⁰ 人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行

った。
³⁹ さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、「この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた」とあかしした女の言葉によって、イエスを信じた。⁴⁰ そこで、サマリヤ人たちはイエスのもとにきて、自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつか滞在された。⁴¹ そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。

⁴² 彼らは女に言った、「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」。

サマリヤの女はその日のお昼頃、家事の一環として水を汲むためにヤコブの井戸にいきました。誰もいないだろうという予想に反して、彼女は井戸のところに座っている人を見つけました。彼女の一日は大方予想どおりに進んでいたことでしょう。でもその日の井戸までの外出はいつもとは違うのです。彼女が見た人はただの人ではなかったからです。その日はいつもと違う日になりました。イエス様に会った瞬間から、彼女自身も今までとは違う人になったのです。

サマリヤの女のように、私たちもイエス様に会ったときに変えられます。イエス様が「あなたの夫を呼びに行つて、ここに連れてきなさい」(ヨハネ 4:16)とか「あなたの家族、友達、あなたが会おうすべての人のもとに行つて、伝えなさい」と言って、私たちを伝道のために送り出されるとき、私たちもサマリヤの女と同じことができるのです。イエス様によってどのように自分を変えられたかを分かち合うことができます。

「私が?どうやって?」と尋ねたり、「でも私は神学を学んでいません」と言ったりする人もいるかもしれません。「でも私には宣教師になてなれない」と言う人もいるかもしれません。また多くの人が心の中で「でも私は私生活でたくさん抱えていて、誰かに分かち合えるような話なんてない」と考えるでしょう。「私は十分に献身できていない」と告白する人もいるでしょうし、「神様が伝道の完結のために私を召しておられるだなんて信じられません」と拒む人もいるでしょう。

この井戸の女の話は、イエス様の福音を宣べ伝えるためには完璧である必要はなく、すべてを知っていたり、遠い地に行く必要もない、ということを私たちに教えています。

WE CAN GO 私たちは行ける

1. 世に宣べ伝えるために、私たちは完璧である必要はない

サマリヤの女は完璧ではありませんでした。彼女がほかの女の人たちに出会わないような時間帯に水を汲みに行っていたという事実は、彼女が完璧から程遠かったということを物語っています。イエスが彼女の結婚生活について述べたことは、彼女がまったくもって律法を守っていなかったことを示しています。ですが、彼女の渇いた魂の叫びは、彼女の心が満ち足りていなかったことの証拠です。

「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい」(15 節)。

サマリヤの女は罪の中で生きていました。罪悪感で彼女の心は押しつぶされそうでした。良心の呵責にさいなまれ、偏見のまなざしによって彼女の魂はズタズタに傷つけられていました。ほかの人たちがいるときに井戸へ行くのは、彼女にとって恥ずかしさ以上の屈辱的な行為でした。来る日も来る日も、彼女は自分が存在する意味を見いだせず、水では癒されない何かを彼女は求めていました。彼女は愛、平安、自由、そして生きる喜びを渴望していたのです！

もし私たちが、まだ福音がまったく伝わっていない地域に派遣する宣教師を選ぶとしたら、この女性を選ぶことはないでしょう。実際、彼女自身も伝道活動の集まりに参加しようとは思わなかったでしょう。しかし、彼女はイエスに出会うやいなや、自身の経験を宣べ伝え始めました。彼女の話しかけた人々は、まだイエスのことを知らず、知っているのはこの女性のことだけでした。彼女の人生は完璧になったわけではありませんが、完璧な人に会ったとき、彼女は別の女性へと変えられたのです。

自分の不完全な人生を言い訳にする代わりに、この不完全な人生こそが、彼女のメッセージにおいて重要な役割を果たしたのです。

「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらん下さい」(29 節)。

世界に宣べ伝えるために、私たちは完璧である必要はないのです。

2. 世に宣べ伝えるために、私たちはすべてを知っている必要はない

サマリヤの女は宗教についてすべてを知っていたわけではありませんでした。このラビ(先生)に会ったばかりの彼女には、聖書に関する疑問がいくつもありました。彼女はどうかしたら神様を正しく礼拝できるのかわからずにいました。またメシアが来ることを期待していながらも、今日メシアに出会う準備はできていませんでした。

「わたしは、キリストと呼ばれるメシアがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう」(25 節)。

私たちの不完全な生き方が、世に宣べ伝えられない言い訳になり、加えて、知識不足や能力不足もまた、言い訳となります。「どうやって聖書研究を授けたらいいのかわかりません！」「私は人見知りするし、人とお話しするのが得意じゃないんです！」「聖書に詳しくありません！」「私は年を取りすぎています！」「私は若すぎます！」こういうセリフを聞いたり言ったりしたことがある人はどれだけいらっしゃいますか？私たちは自分の限界を理由に、伝道に参加する際、制限をかけています。

イエス様について私たちが知っておかなければならないのは、イエス様はすべてをご存じだということ、そしてそれでもなお私たちを愛してくださるということです。重要なのは、どれだけ知っているかではなく、知っていることがどれだけ私たちの人生に影響を与えるかということです。

私たちはイエス様のすべてを知っている必要はなく、イエス様をほかの人に知ってもらうだけでいいのです。

「さあ、見に来てごらんなさい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません」(29 節)
世界に宣べ伝えるために、私たちはすべてを知っている必要はありません。

3. 世に宣べ伝えるために、私たちは遠くに行く必要はない

メッセージから受けた衝撃とイエスの存在によって、サマリヤの女性は背負っていた重荷をイエス様の足元に降ろしました。彼女は水がめを置いて、すぐに家に戻りました。彼女は恐れをなして逃げたのでしょうか？いいえ！彼女は自由になったから走り出したのです。重荷から解放された彼女は、自分の家や近所の家々まで走っていき、一緒に井戸まで来るように呼びかけました。

まず、彼女は「夫」を連れてくるために家に帰り、イエス様のことを伝えました。次に近所の人たちにイエス様のことを話しました。そして彼女は町中に自身の経験を証したのです。

サマリヤの女の最大の関心事は、イエス様に人を連れてくることでした。弟子たちの最大の関心事は、いのちのパンであるイエス様にパンを持っていくことでした。

「人々は町を出て、ぞくぞくとイエスのところへ行った。その間に弟子たちはイエスに、『先生、召しあがってください』とすすめた」(30,31 節)。

みなさん、私たち一人一人が一番影響を及ぼすことができるのは、家族や近所の人たちです。彼らは私たちのことを見えています。私たちのことを知っています。私たちの生きざまが、私たちの伝道となるのです。彼らは、イエス様が私たちのめっちゃくちゃな生き方を変える力があるなら、彼らの大変な人生をも変える力を、イエス様は持っていると理解することができるのです。

未だに福音が宣べ伝えられていない地域に行くことの難しさを語るとき、私たちは地元の伝道活動に参加しない言い訳と同じことを言います。「扉は閉ざされていた」「冷たい人ばかりだ」「みんな世俗化されている」。これらが福音を宣べ伝えるうえでの障害となっています。

ですが、私たちの変えられた生き方を用いて、私たちの家族や隣人の人生もまたイエス様に変わってもらわなければなりません。

「さて、この町からきた多くのサマリヤ人は、『この人は、わたしのしたことを何もかも言いあてた』とあかしした女の言葉によって、イエスを信じた」(39 節)。

世界に宣べ伝えるために、私たちは遠くに行く必要はないのです。

私たちは、自分たちも世に宣べ伝えることができることを学びました。そして、そのためには完璧である必要も、すべてを知る必要も、遠くに行く必要もないことも学びました。サマリヤの女性の話からは、どのようにほかの人に「救い主を見に来てください」と招く変化が起こるかわかります。最も大事なことに優先順位をつけ、自分を証すること、そして、自分自身ではなくイエス様に焦点をあてる必要があります。

HOW WE GO **どのように行くのか**

1. 変化を起こすために、わたしたちは優先順位を決める必要がある

イエス様と出会った衝撃は、サマリヤの女性の価値観を完全に変えました。彼女の一日の優先順位が即座に変わったのです。汲みに行った水は大事なものでしたが、その日の午後、福音を宣べ伝えることほどは重要ではありませんでした。置き去りにされた水がめは、彼女の心がどれだけ変えられたかを目に見える形で表しています。

私たちが自分の重荷をイエスの足元に降ろすとき、私たちの優先順位は重荷を運ぶことから、福音を運ぶことへと変えられます。

この女性はイエス様の優先順位リストを採用しました。イエス様にとって、飲んだり食べたりすることよりも魂の収穫が大事でした。サマリヤの女性にとって、水を汲んだりお昼ご飯を食べることよりも、魂の救済のほうが重要となったのです。

もし私たちの生活の何よりも伝道が重要となるなら、伝道は私たちの生活すべての領域にも影響を与えるようになるでしょう。

「この女は水がめをそのままそこに置いて町に行き」(28 節)

世界に宣べ伝えるために、私たちは優先順位を決める必要があります。

2. 変化を起こすために、私たちは自分を証する必要がある

この女性は説教はしませんでした、代わりに自分の考えを述べました。「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます」。論理的にはこういうことです。町の人たちは彼女の生活を疑問に思っていて、彼女を判断していました。もっともイエス様も、彼女が今までしたことをすべて知っていましたが、それでも彼女を愛されました。彼女の証はシンプルでありながら、とても力強いものでした。

サマリヤの女性を知っている人たちは、突然彼女が変えられたことを否定できなかったでしょう。恥ずかしさのあまり周りと目を合わせなかった彼女の悲しそうな目は、いま、彼女の心に火を灯した希望によって、輝いていたのです。

井戸から戻る彼女は手ぶらでしたが、心は満たされ、喜びであふれんばかりでした。生ける水を与えることで、イエス様はご自身の恵みを彼女に与えたのです。彼女が変えられたのは、町中、誰の目にも明らかでした。

キリストの恵みに触れられた人生の力を否定することはできません。もしあなたの人生が神の力によって変えられたなら、その真実を分かち合う必要があります！キリストがどれだけあなたの人生を変えられたか、ほかの人たちにも見てもらう必要があります。人々は、イエス様が彼らをも受け入れ、恵みが差し出されていることを知る必要があります。

福音を説かれたとき、その人もまた伝道者になるのです。

「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」(42 節)。

世界に宣べ伝えるために、私たちは自分を証する必要があります。

3.変化を起こすために、私たちはイエス様に焦点を合わせる必要がある

サマリヤの女性は「さっき、私は生きてきた中で一番すごい個人的な経験をしました！」とは言いませんでした。彼女はただ「見にきてください」とだけ言ったのです。これは個人的な証をする際、一番いい方法の一つです。彼女の証によって人々の好奇心はかきたてられましたが、彼女のメッセージの中心にあるのはイエス様でした。

私たちの使命は救い主を世に示すことです。人々の注意をひくために証やその他、様々な資料ややり方を用いたとしても、私たちのメッセージの中心はキリストです。私たちはキリストの生涯について、死について、そしてよみがりとその奉仕を語り、私たちを天国へ迎えるため、戻ってきてくださることについて話すにちがいありません。

私たちは、他の人にイエス様を見にきてもらう前に、自分自身がまず、イエス様を見て、イエス様の言葉に集中する必要があります。私たちは神の言葉を生きなければなりません。

「そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた」(41 節)。

世界に宣べ伝えるために、私たちはイエス様に焦点を合わせる必要があります。

実践的な信仰の働き

エレン・G・ホワイトはサマリヤの女性の経験と奉仕について記しています。

サマリヤの女は、このお方が救い主であるということがわかるとすぐにほかの人たちをみもとにつれてきた。彼女は、イエスご自身の弟子たちよりも有能な伝道者であることがわかった。弟子たちはサマリヤが有望な伝道地であるというしるしを何も見なかった。彼らの思いは、将来なされる大きな働きに集中されていた。自分たちのすぐまわりに集めるべき収穫があることに彼らは気がついていなかった。ところが彼らの軽蔑していた女によって、町中の人々が救い主のみことばを聞きにつれてこられた。彼女は光をすぐに自分の国民に伝えた。この女は、キリストを信じる実践的な信仰の働きを表わしている。真の弟子はみな伝道者として神の国に生まれているのである。生ける水を飲む者はいのちの泉となる。受ける者が与える者となる。魂のうちにあるキリストの恵みは、砂漠の中の泉のようなもので、それはわきあがってすべての人を元気づけ、いまにも死にそうになっている人々にいのちの水を飲みたいと熱望させるのである。(エレン・G・ホワイト、各時代の希望(上)234p)

現代においても、神様は喜んで世界に宣べ伝えたいと思っている女性を用いておられます。立ち上がり「見にきてください。『わたしのしたことを何もかも言いあて』ながら、それでも私を愛してくださる人です」と言う女性があちこちにいて、彼女たちを通じて人々はイエスを見出すのです。

ある女性の話を聞いてください。神様が育成と伝道のために、女性に力を与えられるとき、どれだけのことを成しえるのか、彼女の話が物語っています。彼女が、「私は行って世に宣べ伝えます」と言ったことで、南米に変化がもたらされました。

I WILL GO REACH MY WORLD: Ana Stahl

私は行って世に宣べ伝えます:アナ・スタール

[あなたの地域の話に差し替えていただいて結構です]

アナ・クリスティーナ・カールソン・スタールは 1870 年にスイスに生まれ、16 歳のときに家族とともにアメリカに移住してきました。

1982 年にフェルナンド・スタールと結婚した彼女は、翌年エレン・G・ホワイト著の「各時代の争闘」という本を夫と一緒に読みました。文書伝道者から買った本でした。この文書伝道者はアナとフェルナンドに聖書研究も授けました。この文書伝道者の影響で、スタール夫妻は安息日を守るようになり、フェルナンドは煙草をやめました。

フェルナンドが仕事をクビになったとき、夫妻は人々をイエスへと導けるような環境で仕事をしたいと気づきました。二人の人生に起こった変化は、「世の救い主を見にきてください。私たちを救ってくださった救い主は、あなたたちのこともお救いになれます」と周りの人に言う、十分な根拠をもっていました。夫妻は祈り始めました。夢をかなえてくださいと神様に願いました。夫妻は信仰によって歩みを進め、二人一緒に看護学校に入学しました。

1909 年、看護師としてオハイオで働いていた時、南米支部総理のジョセフ・W・ウェストファル牧師が、南米で宣教師にならないかと人々に訴えかけているのを聞きました。これこそが祈りの答えでした！彼らは宣教看護師もしくは看護宣教師として南米に行くのです！スタール夫妻はスペイン語をまったくしゃべれないのにも関わらず、福音を宣べ伝えるためにボートでペルーまで行きました。

アナとフェルナンドは医療助手として働き、いくつもの学校や教会を設立しました。彼らは農業や公衆衛生向上のための指導をしました。アメリカ先住民のために政府からの補助を獲得しました。部族間の対立を仲裁し、ほかの宣教師たちや人道支援活動家たちを助けました。ほかにも、南米滞在中にたくさんのことを成し遂げました。夫妻の努力によって何万人もの人がキリストの元へと導かれました。アナと夫のフェルナンド・スタールは、今でもその効果的な働きによって現地のアドベンチストやアドベンチスト以外の人たちからも覚えられています。

夫妻がペルーに降り立ってから 110 年も経った今日においても、アンデス地帯の地域ではスタール夫妻にまつわる歌を歌っています。ペルーやボリビアではたくさんの子どもたちがアナやフェルナンドと名付けられています。教会、学校、伝道機関までもが彼らの名前にあやかって名付けられています。ペルーのイキトスにあるアナ・スタール・クリニックはアナ・スタールにちなんだ名前ですし、カリフォルニアのラシエラ大学にあるザ・スタール・センター・フォー・ワールド・ミッションズはスタール夫妻にちなんだ名前です。アナの物語が生き続け、世代を超えて世界伝道のために働こうとする女性たちを鼓舞するために、アナについての本も書かれています。

多くの女性が、毎日、家庭や教会の生活の中で変化をもたらしています。彼女たちの働きやその影響によって近隣、街、地域、そして国家をも変えています。私たちが「世の救い主を見にきてください」、と他の人々を招くとき、私たちは変化をもたらします。

私たちは世界に宣べ伝えるため、召されています

どんな人であっても、世の救い主を見にくるようになり、人々を招くことができます。イエス様をほかの人に伝えるには、イエス様と私たちとの個人的な経験が効果をもたらします。

あなたも私も、世に宣べ伝えるようにとの召しを受けています。自分の不完全さ、知識や経験不足、見込みのなさに負けないでください。あなたの使命を最優先し、証しを分かちあい、イエス様に注目して、どこにあってもイエス様の生きた証になりましょう！あなたがそうするとき、そのあなたの変化のゆえに、人々は間違いなくイエスを信じるようになるのです！

みなさん、今日この聖なる集会の場で、サマリヤの女性と同じ宣言をしてから出かけていくことを望まれますか？「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらんなさい」(29 節)。イエスがあなたにしてくださったことのゆえに、あなたの家族、友人、隣人をイエス様のもとへ導きたいと思われるのでしょうか？あなたの愛する人たちが、こう言う機会があるのでしょうか？「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」(42 節)。

それでは立って祈りましょう。神様が私たちに、こう答えるチャンスと勇気を与えてくださいますように。

「しもべはおります。私をお使わしてください。私の世界に宣べ伝えに行きます」。

※セミナーの日本語訳は別のファイルになっております。セミナーのファイルは伝道局女性部ホームページよりダウンロードしていただけます。